

兵庫県人口の動き

(昭和54年1月～12月)

昭和55年3月

兵庫県企画部統計課

は し が き

人口問題はいろいろの施策をするうえでもっとも基本となるものであります。人口にまつわる諸問題は経済、社会の各分野で広く論議されております。この報告書では全国的な人口の動きからはじめて兵庫県の人人口の動きに触れ、地方の時代といわれる地域別人口や市町別人口にも触れ、地域分布も述べています。

人口の年齢構造や世帯構造の解明は、今後の年少人口や老年人口を検討する指針となるものであり、また人口の就業構造は労働力人口の趨勢をみるよすがとなります。

ここでは本県人口の全国に占める地位や現状などを主要都道府県と比較して示しております。また、県内においても人口の各種構造がよく理解できますよう表およびグラフを各紙面に盛り込んで説明を試みております。

この小冊子が、人口問題を検討する一翼ともなれば幸甚であります。

昭和 55 年 3 月

兵庫県企画部長

菱 川 文 博

も く じ

<p>I 人口の動き 1 頁</p> <p> 1 全国の人口の動き 1 頁</p> <p> 2 順位別都道府県人口 2 頁</p> <p> 3 主要都道府県の人口の推移 3 頁</p> <p>II 兵庫県の人口の動き 4 頁</p> <p> 1 人口総数の動き 4 頁</p> <p> 2 男女別人口の動き 5 頁</p> <p> 3 地域別人口の動き 6 頁</p> <p> 4 地域別人口の増減率及び増減寄与率... 7 頁</p> <p> 5 順位別市町人口 8 頁</p> <p> 6 市町別人口と面積のローレンツ曲線... 9 頁</p> <p> 7 人口集中地区人口 10 頁</p> <p> 8 兵庫県の流動人口 11 頁</p> <p>III 人口の年齢構造 12 頁</p> <p> 1 全国の年齢構造（3区分） 12 頁</p> <p> 2 兵庫県の年齢構造（3区分） 13 頁</p> <p> 3 兵庫県の地域別年齢構成とその指数... 14 頁</p>	<p> 4 年次別出生数 15 頁</p> <p> 5 老年人口 16 頁</p> <p> 6 男女別老年人口 17 頁</p> <p> 7 国籍年齢別外国人 18 頁</p> <p>IV 世帯構造 19 頁</p> <p> 1 全国の世帯 19 頁</p> <p> 2 兵庫県の世帯 20 頁</p> <p> 3 普通世帯の増加率及び世帯人員 21 頁 (兵庫県)</p> <p> 4 世帯人員別普通世帯(兵庫県) 22 頁</p> <p> 5 家族類型別普通世帯(兵庫県) 23 頁</p> <p> 6 地域別世帯の家族類型別普通世帯 ... 24 頁 (兵庫県)</p> <p>V 労働力就業構造 25 頁</p> <p> 1 全国の労働力人口 25 頁</p> <p> 2 兵庫県の労働力人口 26 頁</p> <p> 3 男子労働力コーホート 27 頁</p> <p> 4 職業（大分類）別就業者 28 頁</p> <p> 5 年齢階級別就業者 29 頁</p>
--	---

統 計 表

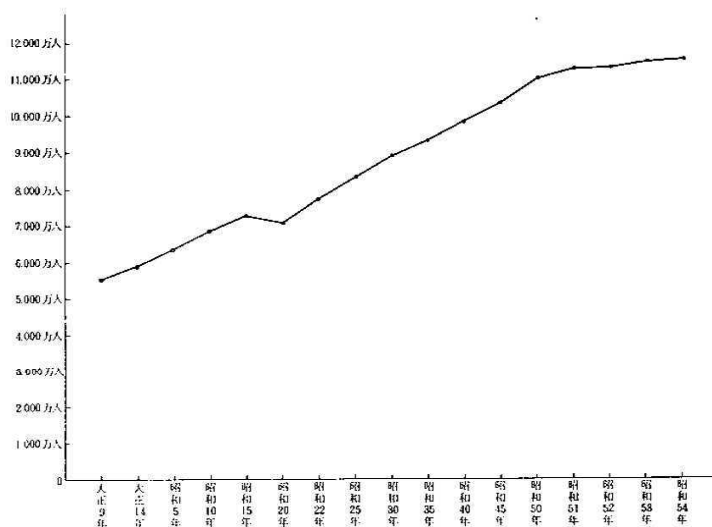
1 年次別自然・社会増減表	33 頁
2 月別、市郡別、自然・社会増減表（昭和54年）	34 頁
3 地域別、自然・社会増減表（昭和54年）	35 頁
4 地域別人口の自然・社会増減表（昭和54年）	36 頁
5 市町別自然・社会増減表（昭和54年）	40 頁

I 人口の動き

1 全国の人口の動き

大正9年に第1回の国勢調査が実施されたときの人口は5,596万3千人であった。昭和50年の第12回国勢調査の人口は1億1,194万人で、昭和54年10月には1億1,613万人となった。昭和54年の人口は大正9年の人口の2.1倍となっている。

図1. わが国人口の動き



第1回の調査から5年ごとの増加数は、昭和15年までは平均して429万人（年間平均増加数約86万人）増加している。毎年の平均増加率は1.4%～1.5%程度である。

昭和25年から昭和50年までの5年間の増加数は、平均すると650万人（年間平均増加数は130万人）である。

昭和25年から50年までの年平均増加率は、昭和25年の1.7%をのぞけば、1.4%～1.5%である。昭和51年からの人口増加率は1.0%から、昭和54年には0.8%へと低下してきている。

表1 わが国の総人口の推移

年次	国勢調査	人口(千人)	備考	5年間の増加		年平均増加率(%)
				増加数(千人)	増加率(%)	
1920(大正9)	第1回	55,963	含 沖 縄	—	—	—
1925(大正14)	2	59,737	〃	3,774	6.74	1.46
1930(昭和5)	3	64,450	〃	4,713	7.89	1.51
1935(昭和10)	4	69,254	〃	4,804	7.45	1.49
1940(昭和15)	5	73,114	〃	3,860	5.57	1.41
1945(昭和20)	—	71,998	除 沖 縄	△ 542	△ 0.75	—
1947(昭和22)	6	78,101	除 沖 縄	—	—	—
1950(昭和25)	7	84,115	含 沖 縄	11,202	15.56	1.73
1955(昭和30)	8	90,077	〃	5,962	7.09	1.48
1960(昭和35)	9	94,302	〃	4,225	4.69	1.36
1965(昭和40)	10	99,209	〃	4,907	5.20	1.39
1970(昭和45)	11	104,665	〃	5,456	5.50	1.41
1975(昭和50)	12	111,940	〃	7,275	6.95	1.47
1976(昭和51)	—	113,089	〃	—	—	1.03
1977(昭和52)	—	114,154	〃	—	—	0.94
1978(昭和53)	—	115,174	〃	—	—	0.89
1979(昭和54)	—	116,133	〃	—	—	0.83

(注) 国勢調査

昭和51年～54年は推計人口による

2 順位別都道府県人口

都道府県別の人口を多いほうからの順位で見ると、1位が東京都で1千万人を超える。2位は大阪府、3位は神奈川県で、兵庫県は第7位である。下位5位は、鳥取県、島根県、福井県、山梨県、徳島県である。人口100万人以下の県は香川県を含めて8県ある。人口が100万人から200万人までの県は岐阜県を含めて22県ある。

東京都の人口は鳥取県の人口の19.36倍である。大阪府も同じく14.17倍である。

兵庫県の人口はわが国総人口の4.4%である。

表2 順位別都道府県人口(昭和54年10月1日)

人口順位	都道府県	人口(千人)
1	東京都	11,596
2	大阪府	8,487
3	神奈川県	6,809
4	愛知県	6,176
5	北海道	5,532
6	埼玉県	5,309
7	兵庫県	5,135
8	千葉県	4,617
9	福岡県	4,527
10	静岡県	3,420
11	広島県	2,723
12	京都府	2,515
13	茨城県	2,503
14	新潟県	2,437
15	長野県	2,071
16	宮城県	2,054
17	福島県	2,015

18	岐阜県	1,945
19	岡山県	1,865
20	群馬県	1,826
21	熊本県	1,776
22	鹿児島県	1,770
23	栃木県	1,768
24	三重県	1,674
25	長崎県	1,592
26	山口県	1,588
27	青森県	1,514
28	愛媛県	1,499
29	岩手県	1,411
30	秋田県	1,251
31	山形県	1,241
32	大分県	1,224
33	奈良県	1,190
34	宮崎県	1,141
35	石川県	1,110
36	富山県	1,098
37	沖縄県	1,096
38	和歌山県	1,090
39	滋賀県	1,063
40	香川県	995
41	佐賀県	859
42	高知県	828
43	徳島県	821
44	山梨県	795
45	福井県	792
46	島根県	782
47	鳥取県	599
計		116,133

(注) 推計人口・4捨5入の関係で総数は合わない
兵庫県のみ県の推計人口による。

3 主要都道府県の人口の推移

国勢調査のはじまった大正9年からの主要都道府県の人口の推移をみると、昭和20年に人口の急激な変動のあった都道府県があるものの、増加の傾向のあることがうかがわれる。大正9年の人口で昭和53年の人口を割った倍率では、いちばん大きな倍率を示した県は神奈川県で(5.07倍)5倍以上の倍率を示し、人口の増加が著しい。3倍以上の増加を示した都道府県は埼玉県(3.94倍)、大阪府(3.26倍)、東京都(3.14倍)である。2倍以上には愛知県(2.93倍)、北海道(2.33倍)、兵庫県(2.22倍)となっている。

図2. 主要都道府県の人口の推移

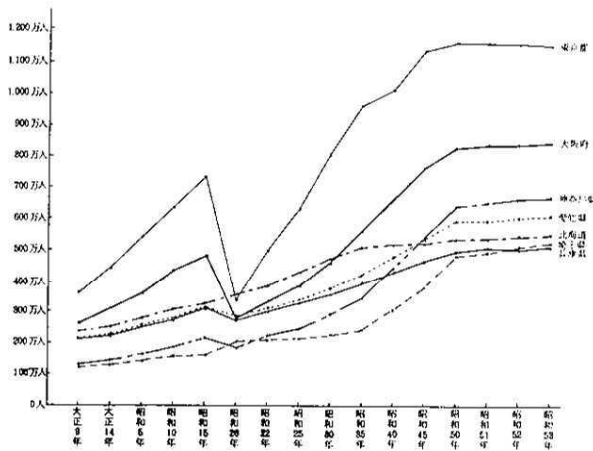


表3 倍率

都道府県名	倍率(昭和53年) 大正9年
東京都	3.14倍
大阪府	3.26
神奈川県	5.07
愛知県	2.93
北海道	2.33
埼玉県	3.94
兵庫県	2.22

表4 主要都道府県の人口の推移

(人)

年次	東京都	大阪府	神奈川県	愛知県	北海道	埼玉県	兵庫県
大正9年	3,699,428	2,587,847	1,323,390	2,089,762	2,359,183	1,319,533	2,301,799
大正14年	4,485,144	3,059,502	1,416,792	2,319,494	2,498,679	1,394,461	2,454,679
昭和5年	5,408,678	3,540,017	1,619,606	2,567,413	2,812,335	1,459,172	2,646,301
昭和10年	6,369,919	4,297,174	1,840,005	2,862,701	3,068,282	1,528,854	2,923,249
昭和15年	7,354,971	4,792,966	2,118,974	3,166,592	3,272,718	1,608,039	3,221,232
昭和20年	3,488,284	2,800,958	1,865,667	2,857,851	3,518,389	2,047,261	2,821,892
昭和22年	5,000,777	3,334,659	2,218,120	3,122,902	3,852,821	2,100,453	3,057,444
昭和25年	6,277,500	3,857,047	2,487,665	3,390,585	4,295,567	2,146,445	3,309,935
昭和30年	8,037,084	4,618,308	2,919,497	3,769,209	4,773,087	2,262,623	3,620,947
昭和35年	9,683,802	5,504,746	3,443,176	4,206,313	5,039,206	2,430,871	3,906,487
昭和40年	10,869,244	6,657,189	4,430,743	4,798,653	5,171,800	3,014,983	4,309,944
昭和45年	11,408,071	7,620,480	5,472,247	5,386,163	5,184,287	3,866,472	4,667,928
昭和50年	11,673,554	8,278,925	6,397,748	5,923,569	5,338,206	4,821,340	4,992,140
昭和51年	11,664,000	8,341,000	6,504,000	5,989,000	5,394,000	4,962,000	5,034,000
昭和52年	11,649,000	8,394,000	6,604,000	6,054,000	5,442,000	5,087,000	5,073,000
昭和53年	11,628,000	8,443,000	6,711,000	6,119,000	5,488,000	5,202,000	5,106,000

(注) 国勢調査。昭和51年～53年は推計人口による

II 兵庫県の人口の動き

1 人口総数の動き

兵庫県の大正9年の第1回国勢調査のときの人口は、230万1,799人であった。昭和50年の第12回の調査時の人口は499万2,140人である。昭和50年の人口は大正9年の人口の2.2倍となっている。

昭和25年から昭和50年までの各5年間の平均増加数は32万2,500人(年間平均増加数5万3,750人)である。

また、25年からの毎年の平均増加率は1.53%である。しかし昭和40年から昭和50年までの年平均増加率は低下の傾向を示している。

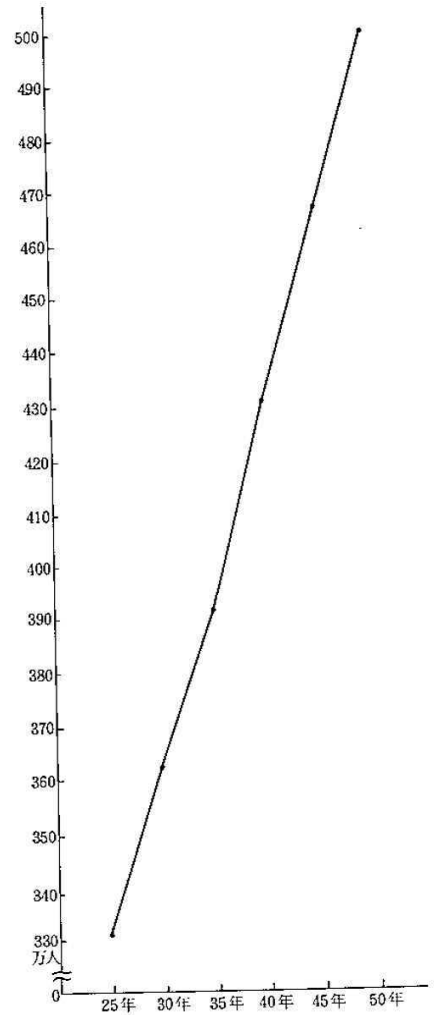
表5 兵庫県人口の推移

年次	国勢調査	人口(人)	5年間の増加		年平均増加率(%)
			増加数(人)	増加率(%)	
大正9年	第1回	2,301,799	—	—	—
大正14年	2	2,454,679	152,880	6.64	1.46
昭和5年	3	2,646,301	191,622	7.81	1.51
昭和10年	4	2,923,249	276,948	10.47	1.60
昭和15年	5	3,221,232	297,983	10.19	1.59
昭和20年	—	2,821,892	▲399,340	—	—
昭和22年	6	3,057,444	235,552	8.35	1.53
昭和25年	7	3,309,935	252,491	8.26	1.53
昭和30年	8	3,620,947	311,012	9.40	1.57
昭和35年	9	3,906,487	285,540	7.89	1.51
昭和40年	10	4,309,944	403,457	10.33	1.60
昭和45年	11	4,667,928	357,984	8.31	1.53
昭和50年	12	4,992,140	324,212	6.95	1.47
昭和51年	—	5,033,689	41,549	—	0.83
昭和52年	—	5,072,600	38,911	—	0.77
昭和53年	—	5,105,963	33,363	—	0.66
昭和54年	—	5,134,576	28,613	—	0.56

(注) 国勢調査

昭和51年～54年は毎年10月1日現在の推計人口による

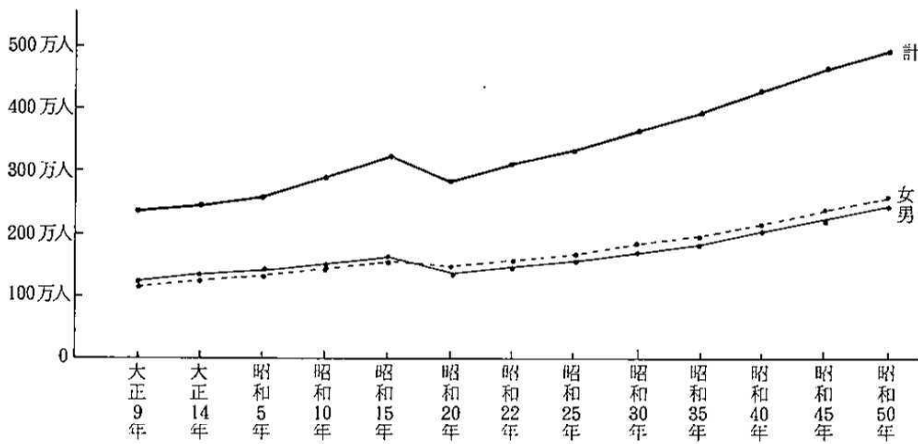
図3 兵庫県人口の推移



2 男女別人口の動き

大正9年から昭和50年までの男女別の人口の推移をみると、男の構成比が女よりも大きいのは、大正9年から昭和15年までで、昭和20年からは女の構成比は男のそれよりも大きくなっている。昭和50年の男女別構成比では女の構成比は50.9%で半数よりも少し多い。

図4. 男女別人口の推移（兵庫県）



女を100とした性比をみると、昭和15年までは男のほうが100を超えていたが、昭和20年以降は男の性比は90台である。

昭和50年では男の性比は96.6である。

表6 男女別人口の推移（兵庫県）

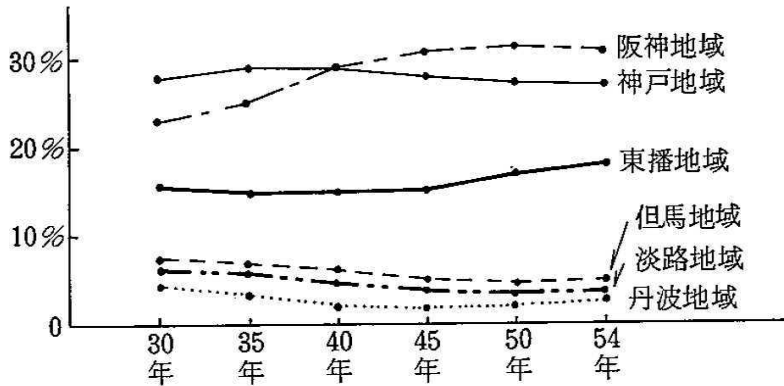
年次	総人口	男		女		性比 (女=100)
		人口	構成比	人口	構成比	
大正9年	2,301,799人	1,175,426人	51.1%	1,126,373人	48.9%	104.4
大正14年	2,454,679	1,239,326	50.5	1,215,353	49.5	102.0
昭和5年	2,646,301	1,332,918	56.8	1,313,383	56.0	101.5
昭和10年	2,923,249	1,466,284	50.2	1,456,965	49.8	100.6
昭和15年	3,221,232	1,622,778	50.4	1,598,454	49.6	101.5
昭和20年	2,821,892	1,344,778	47.7	1,477,114	52.3	91.0
昭和22年	3,057,444	1,505,493	49.2	1,551,951	50.8	97.0
昭和25年	3,309,935	1,622,755	49.0	1,687,180	51.0	96.2
昭和30年	3,620,947	1,773,488	49.0	1,847,459	51.0	96.0
昭和35年	3,906,487	1,917,887	49.1	1,988,600	50.9	96.4
昭和40年	4,309,944	2,120,749	49.2	2,189,195	50.8	96.9
昭和45年	4,667,928	2,299,961	49.3	2,367,967	50.7	97.1
昭和50年	4,992,140	2,453,277	49.1	2,538,863	50.9	96.6

(注) 国勢調査

3 地域別人口の動き

昭和30年からの地域別人口の年次別推移をみれば、昭和40年までは神戸地域の人口が阪神地域の人口を上回っていたが、昭和40年の時点で阪神地域が神戸地域にちかづき、それから以降は阪神地域の人口が神戸地域の人口を上回るようになった。

図5. 地域別人口の年次別推移



の人口が神戸地域の人口を上回
ようになった。

東播地域の人口は昭和45年から
増大の傾向を示している。

表7 地域別人口の動き

(単位：人、%)

地 域	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
	30年人口	35年人口	40年人口	45年人口	50年人口	54年人口
県 計	100.0 3,620,947	100.0 3,908,127	100.0 4,309,944	100.0 4,667,928	100.0 4,992,140	100.0 5,142,532
神戸地域	27.3 986,344	28.5 1,113,977	28.2 1,216,666	27.6 1,288,937	27.3 1,360,605	26.7 1,373,297
阪神地域	22.0 797,153	24.6 960,181	28.2 1,214,509	30.2 1,409,868	30.4 1,516,192	30.3 1,558,853
東播地域	15.1 544,937	14.3 559,643	14.0 604,823	14.8 689,468	16.0 798,028	17.0 876,109
西播地域	18.6 671,977	17.6 689,239	16.9 727,639	16.4 765,632	16.3 812,939	16.2 833,814
但馬地域	7.3 264,484	6.5 253,020	5.5 237,611	4.8 222,236	4.4 217,816	4.2 216,100
丹波地域	3.9 141,144	3.4 133,259	2.9 123,223	2.5 115,869	2.3 114,427	2.2 114,788
淡路地域	5.9 214,908	5.1 198,808	4.3 185,473	3.8 175,918	3.4 172,133	3.3 169,571

(注) 国勢調査。54年は推計人口、4捨5入の関係で総数は一致しない

神戸地域 — 神戸市

阪神地域 — 尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、川辺郡

東播地域 — 明石市、加古川市、西脇市、三木市、高砂市、小野市、加西市、美の郡、加東郡、
多可郡、加古郡

西播地域 — 姫路市、相生市、竜野市、赤穂市、飾磨郡、神崎郡、揖保郡、赤穂郡、佐用郡、宍粟郡

但馬地域 — 豊岡市、城崎郡、出石郡、美方郡、養父郡、朝来郡

丹波地域 — 氷上郡、多紀郡

淡路地域 — 洲本市、津名郡、三原郡

4 地域別人口の増減率及び増減寄与率

昭和54年の地域別人口では、自然増減率では各地域とも増加しているが、社会増減率で増加を示したのは東播地域だけであった。結果として人口増減率で増加した地域は、東播（1.57%）、阪神（0.64%）、西播（0.40%）、丹波（0.12%）、神戸（0.06%）の5地域である。

昭和53年12月末から54年12月末までの人口の増減寄与率では、東播地域が50.32%、阪神地域が37.02%となり、この両地域の人口の伸びが県人口の増加に大きく寄与している。

表8 地域別人口の増減率(昭和54年1月～12月)(△は減少)

地域別	率	人口増減率(%)	自然増減率(%)	社会増減率(%)
県	計	0.53	0.80	△ 0.28
神	戸	0.06	0.69	△ 0.63
阪	神	0.64	0.98	△ 0.34
東	播	1.57	0.95	0.62
西	播	0.40	0.79	△ 0.39
但	馬	△ 0.22	0.43	△ 0.65
丹	波	0.12	0.30	△ 0.18
淡	路	△ 0.22	0.25	△ 0.47

(注) 推計人口

表9 地域別人口の増減寄与率

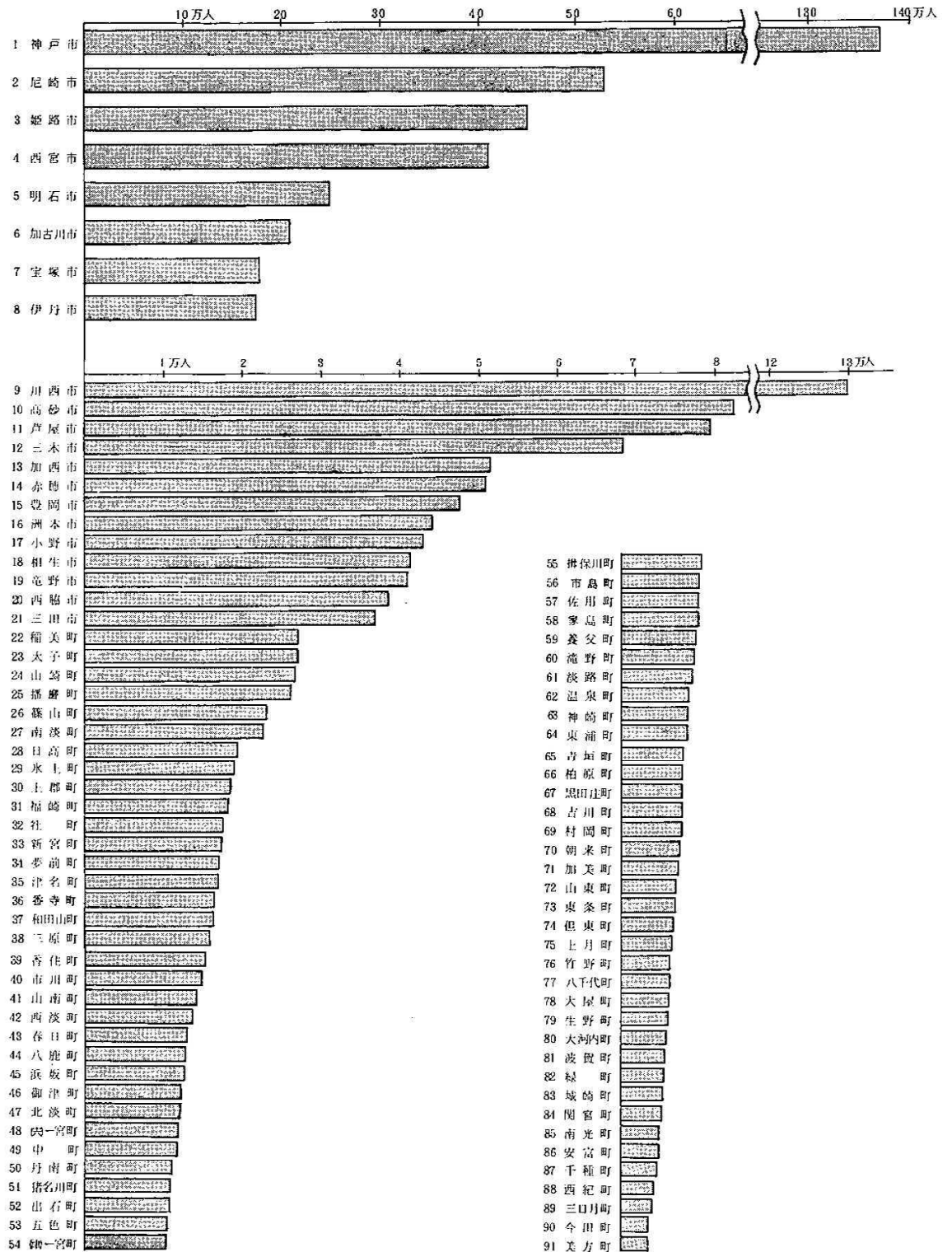
地域別	54年12月末①	53年12月末②	① - ②	寄与率(%)	
県	計	5,142,523人	5,115,650人	26,882人	100.00%
神	戸	1,373,297	1,372,530	767	2.85
阪	神	1,558,853	1,548,902	9,951	37.02
東	播	876,109	862,582	13,527	50.32
西	播	833,814	830,477	3,337	12.41
但	馬	216,100	216,569	△ 469	△ 1.75
丹	波	114,788	114,647	141	0.53
淡	路	169,571	169,943	△ 372	△ 1.38

(注) 推計人口

5 順位別市町人口

順位別市町人口をみると上位には神戸市、尼崎市、姫路市、西宮市、明石市があり、下位5町には美方町、今田町、三日月町、西紀町、千種町がある。人口1万人未満の町は佐用町を含めて35町あることがわかる。

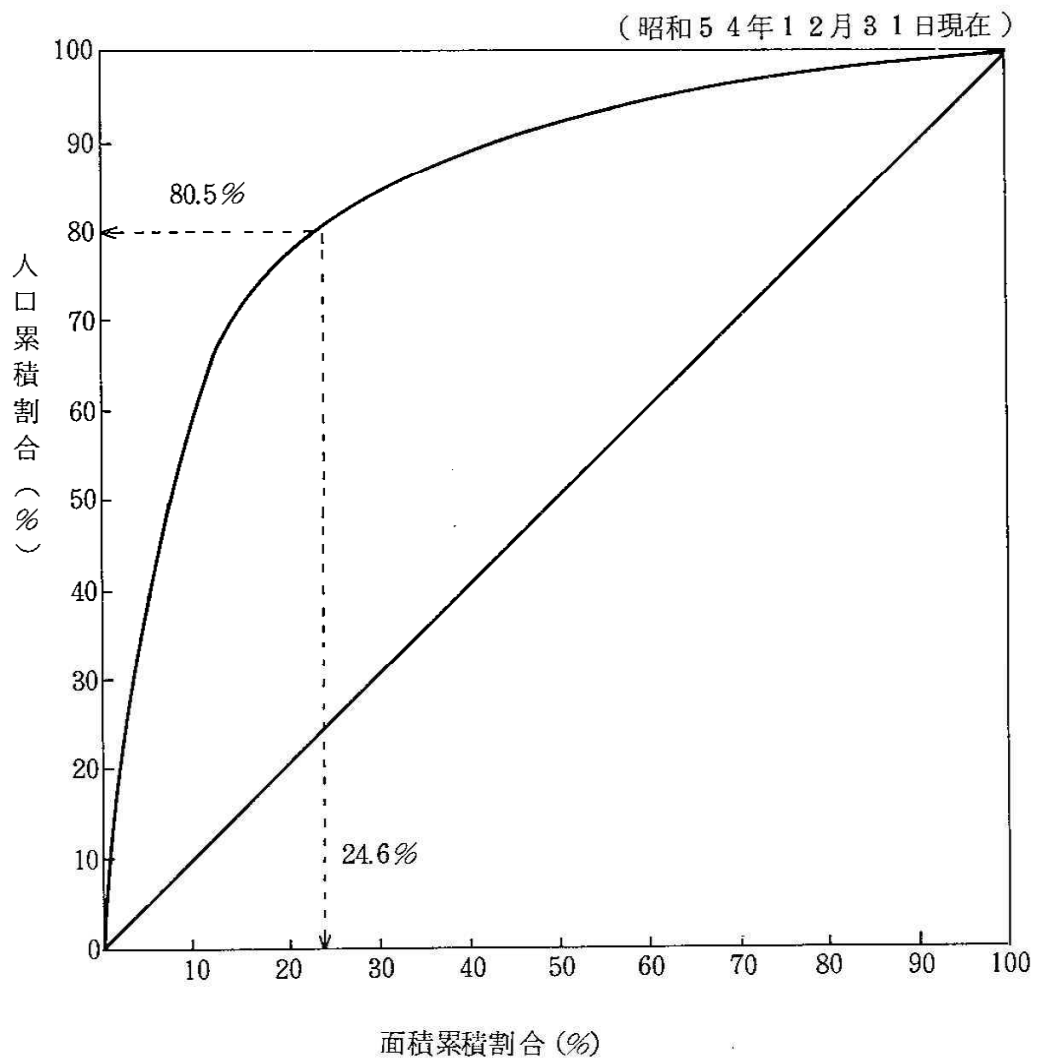
図6. 順位別市町人口（昭和54年12月末現在）



6 市町別人口と面積のローレンツ曲線

順位別市町人口の大きいほうから順次にすくない人口を積みあげてゆくと昭和54年12月31日現在で514万2,532人となる。この人口を100%として市町別人口をパーセントで積みあげてゆく。これを同じように順位別市町人口の大きいほうから小さいほうの人口の面積を積みあげて県全体の面積は8,371.99平方メートルとなる。これを面積の100%として市町別面積の割合(%)で積みあげてゆくとローレンス曲線が描ける。人口の累積の割合と面積の累積の割合が同じであれば45度の直線がかかる。しかし、人口の累積の割合と面積の累積の割合は必ずしも一致しない。県全体の24.6%の面積の土地に、県全体の人口の80.5%が住んでいることがわかる。

図7. 市町別・人口と面積のローレンツ曲線



7 人口集中地区人口

人口集中地区の人口を県全体の人口の割合で示したものを人口集中率とすれば、昭和35年の57.2%から昭和50年には69.22%にまで大きく増加している。県全体のなかで人口集中地区にはおよそ7割の人口が住んでいる。ところがこの7割の人口の住んでいる人口集中地区の面積は、県全体ではどれ位の面積を占めるのであろうか。人口集中地区の面積を県全体の面積で割ってみると、昭和35年では2.40%であったが、昭和50年には4.63%にまで伸びはしたが僅かの面積に多くの人住んでいることがわかる。

図8 人口集中地区人口の割合

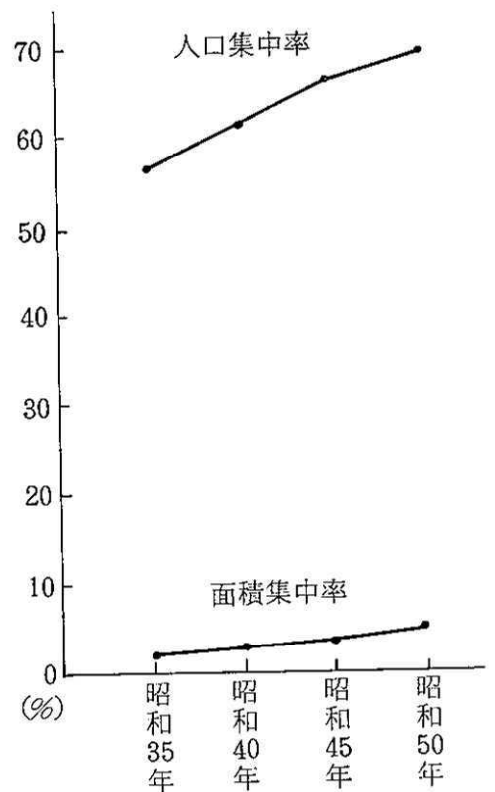


表10 人口集中率

年次	県人口 (人)	人口集中地区人口 (人)	人口集中率 $\left(\frac{\text{人口集中地区人口}}{\text{県人口}}\right)$
昭和35年	3,906,487	2,234,381	57.20%
昭和40年	4,309,944	2,671,138	61.98
昭和45年	4,667,928	3,140,689	67.28
昭和50年	4,992,140	3,455,442	69.22

(注) 国勢調査

表11 面積集中率

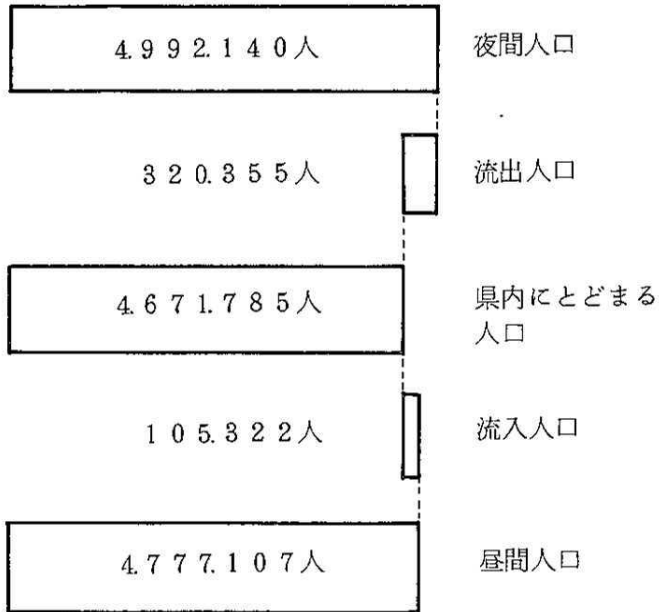
年次	県面積 Km ²	人口集中地区面積 Km ²	面積集中率 $\left(\frac{\text{人口集中地区面積}}{\text{県面積}}\right)$
昭和35年	8,329.92	200.0	2.40%
昭和40年	8,342.47	233.8	2.80
昭和45年	8,350.89	314.5	3.77
昭和50年	8,362.94	386.8	4.63

(注) 国勢調査

8 兵庫県の流動人口

昭和50年の10月1日午前0時現在による兵庫県の国勢調査の夜間人口は499万2,140人である。人口の大きさは夜間と昼間とでは変化している。昼間は、通勤や通学によってその活動の場所を移動し

図9. 昼間人口の構成



ているので、流動人口を考えてみるとつぎのとおりとなる。夜間人口は499万2,140人で、通勤・通学で他府県に流出する人口は32万355人となり、人口流出率は6.4%である。人口流出後の県内にとどまる人口は467万1,785人である。

そのうえに他府県から通勤・通学による流入人口は10万5,322人で、人口流入率は2.2%である。

この結果、兵庫県の昼間人口は477万7,107人となり、夜間人口に対する昼間人口の割合は95.7%（昼間人口率）となる。

表12 兵庫県の流動人口（単位：人）

流動人口	年次	昭和45年	昭和50年
夜間人口 (A)		4,667,928	4,992,140
流出口口 (B)		295,820	320,355
人口流出率 (C) (B/A)		6.3%	6.4%
流入人口 (D)		88,378	105,322
昼間人口 (E) (A-B+D)		4,460,486	4,777,107
人口流入率 (F) (D/E)		2.0%	2.2%
昼間人口率 (G) (E/A)		95.6%	95.7%

(注) 国勢調査。昭和50年の流出口口は15歳未満の通学者28人を含めた。

Ⅲ 人口の年齢構造

1 全国の年齢構造（3区分）

年齢（3区分）別人口の割合を大正9年からみると、0～14歳の人口の割合が昭和25年までは、ゆるやかであったが、それ以降は減少していることがわかる。逆に、15～64歳の人口は増加している。65歳以上の人口も、昭和30年から増大の傾向を見せている。昭和50年の日本の老年化指数は32.5であるが、アメリカは41.1、イギリスは61.5である。

図10 年齢（3区分）別人口の割合の推移

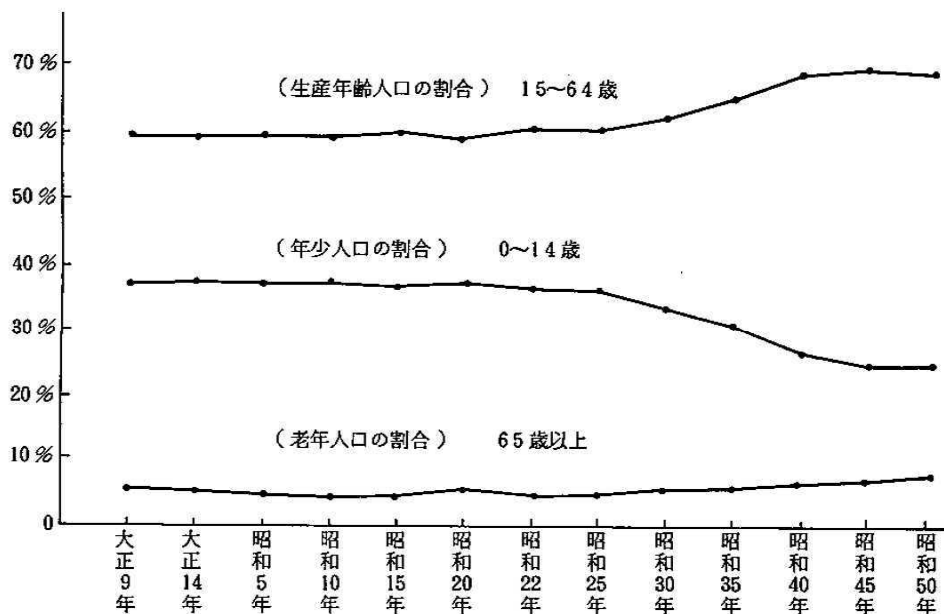


表13 年齢（3区分）別人口 — 全国 —

年次	人口 (人)			割合 (%)			年齢構成指数				
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上	年少人口	老年人口	従属人口	老年化
大正9年(1920)	55,391,481	20,202,310	32,272,422	2,916,749	36.5	58.3	5.3	62.6	9.0	71.6	14.4
〃 14年(1925)	59,179,200	21,706,328	34,478,939	2,993,933	36.7	58.3	5.1	63.0	8.7	71.6	13.8
昭和5年(1930)	63,872,496	23,350,149	37,488,608	3,033,739	36.6	58.7	4.7	62.3	8.1	70.4	13.0
〃 10年(1935)	68,661,654	25,309,632	40,162,743	3,189,279	36.9	58.5	4.6	63.0	7.9	71.0	12.6
〃 15年(1940)	72,500,581	26,134,865	42,950,762	3,413,996	36.0	59.2	4.7	60.8	7.9	68.8	13.1
〃 20年(1945)	71,998,104	26,477,086	41,820,903	3,700,115	36.8	58.1	5.1	63.3	8.8	72.2	14.0
〃 22年(1947)	78,101,473	27,573,354	46,783,403	3,744,716	35.3	59.9	4.8	58.9	8.0	66.9	13.6
〃 25年(1950)	83,199,637	29,428,039	49,657,761	4,109,167	35.4	59.7	4.9	59.3	8.3	67.5	14.0
〃 30年(1955)	89,275,529	29,798,150	54,729,248	4,747,291	33.4	61.3	5.3	54.4	8.7	63.1	15.9
〃 35年(1960)	93,418,501	28,066,606	60,002,086	5,349,809	30.0	64.2	5.7	46.8	8.9	55.7	19.1
〃 40年(1965)	98,274,961	25,166,182	66,927,954	6,180,825	25.6	68.1	6.3	37.6	9.2	46.8	24.6
〃 45年(1970)	104,665,171	25,152,779	72,119,100	7,393,292	24.0	68.9	7.1	34.9	10.3	45.1	29.4
〃 50年(1975)	111,939,643	27,220,692	75,807,317	8,865,429	24.3	67.7	7.9	35.9	11.7	47.7	32.5

(注) 国勢調査。昭和15年、25年、30年、50年は総数に年齢不詳を含む。
 昭和45年、50年のみ沖縄を含む
 昭和15年は外国人を除く。

2 兵庫県の年齢構造（3区分）

兵庫県の年齢3区分別の人口構成をみると0～14歳までの年少人口は、大正9年から昭和30年までは、県全体の人口の30%台を占めていたが、昭和35年以降は20%台にまで低下している。

15～64歳までの生産年齢人口の割合は大正9年から昭和50年まで60%台を維持している。

65歳以上の老年人口は大正9年から昭和50年までの県全体の構成比は5%台から7%台へと伸びている。

図 11. 年齢3区分別人口構成

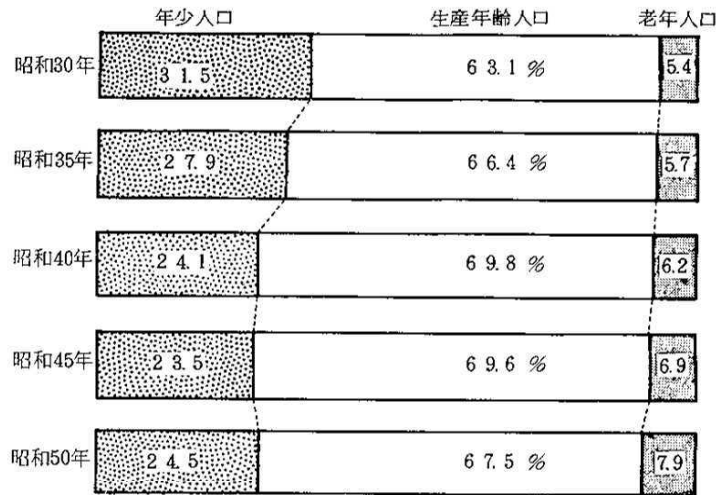


表 14 年齢（3区分）別人口の推移（兵庫県）

年次	総人口(人)		0～14歳		15～64歳		65歳以上	
	総人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
大正9年	2,301,799	100.0	798,303	34.7	1,385,734	60.2	117,762	5.1
大正14年	2,454,679	100.0	849,925	34.6	1,479,870	60.3	124,884	5.1
昭和5年	2,646,301	100.0	906,528	34.3	1,612,580	60.9	127,193	4.8
昭和10年	2,923,249	100.0	1,004,167	34.4	1,786,409	61.1	132,673	4.5
昭和15年	3,212,045	100.0	1,071,170	33.3	1,997,406	62.2	143,180	4.5
昭和20年	2,821,892	100.0	965,650	34.2	1,714,268	60.7	141,974	5.0
昭和22年	3,057,444	100.0	995,999	32.6	1,916,729	62.7	144,716	4.7
昭和25年	3,309,935	100.0	1,102,820	33.3	2,045,505	61.8	161,276	4.9
昭和30年	3,620,947	100.0	1,142,402	31.5	2,284,166	63.1	194,282	5.4
昭和35年	3,906,487	100.0	1,089,072	27.9	2,594,822	66.4	222,593	5.7
昭和40年	4,309,944	100.0	1,037,393	24.1	3,006,974	69.8	265,577	6.2
昭和45年	4,667,928	100.0	1,096,958	23.5	3,246,965	69.6	324,005	6.9
昭和50年	4,992,140	100.0	1,224,538	24.5	3,369,577	67.5	395,727	7.9

(注) 国勢調査。昭和15年、25年、30年、50年は総数に年齢不詳を含む
昭和15年は外国人を除く

3 兵庫県の地域別年齢構成とその指数

地域別の年齢構成の指数をみると、昭和45年も昭和50年も年少人口指数はどの地域も30を超えている。働いている人が

表15 兵庫県地域別年齢構成

(単位：人)

年次	地域区分	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口
			0～14歳	15～64歳	65歳以上
昭和45年	県計	4,667,928	1,096,958	3,246,965	324,005
	神戸地域	1,288,937	286,288	919,317	83,332
	阪神〃	1,409,868	335,300	1,003,698	70,870
	東播〃	689,468	167,752	471,808	49,908
	西播〃	765,632	189,327	517,311	58,994
	但馬〃	222,236	54,370	142,709	25,157
	丹波〃	115,869	25,308	76,176	14,385
	淡路〃	175,918	38,613	115,946	21,359
昭和50年	県計	4,992,140	1,224,538	3,369,577	395,727
	神戸地域	1,360,605	318,510	937,521	103,191
	阪神〃	1,516,192	380,574	1,042,362	92,601
	東播〃	798,028	207,720	529,110	61,023
	西播〃	812,939	207,712	535,023	70,127
	但馬〃	217,816	50,124	139,391	28,300
	丹波〃	114,427	23,482	74,730	16,214
	淡路〃	172,133	36,416	111,440	24,271

働いている人が10人おれば子供を3人養っていることになる。老年人口指数は各地域とも昭和45年には20未満であったのが、昭和50年には但馬、丹波、淡路の3地域は20を超えている。働いている人が10人おれば、20を超えている地域は65歳以上の人を2人以上養うことになる。

(注) 国勢調査。昭和50年の総数は年齢不詳を含む

表16 年齢構成指数（兵庫県）

年次	年少人口指数	老年人口指数	従属人口指数	老年化指数	
兵庫県	昭和25年	53.9	7.9	61.8	14.6
	昭和30年	50.0	8.5	58.5	17.0
	昭和35年	42.0	8.6	50.5	20.4
	昭和40年	34.5	8.8	43.3	25.6
	昭和45年	33.8	10.0	43.8	29.5
	昭和50年	36.3	11.7	48.1	32.3
昭和45年	神戸地域	31.1	9.1	40.2	29.1
	阪神〃	33.4	7.1	40.5	21.1
	東播〃	35.6	10.6	46.1	29.8
	西播〃	36.6	11.4	48.0	31.2
	但馬〃	38.1	17.6	55.7	46.3
	丹波〃	33.2	18.9	52.1	56.8
昭和50年	淡路〃	33.3	18.4	51.7	55.3
	神戸地域	34.0	11.0	45.0	32.4
	阪神〃	36.5	8.9	45.4	24.3
	東播〃	39.3	11.5	50.8	29.4
	西播〃	38.8	13.1	51.9	33.8
	但馬〃	36.0	20.3	56.3	56.5
丹波〃	31.4	21.7	53.1	69.0	
淡路〃	32.7	21.8	54.5	66.6	

(注) 国勢調査

(注)

$$\text{年少人口指数} = \frac{0 \sim 14 \text{ 歳人口}}{15 \sim 64 \text{ 歳人口}} \times 100$$

$$\text{老年人口指数} = \frac{65 \text{ 歳以上人口}}{15 \sim 64 \text{ 歳人口}} \times 100$$

$$\begin{aligned} \text{従属人口指数} \\ = \frac{(0 \sim 14 \text{ 歳人口}) + (65 \text{ 歳以上人口})}{15 \sim 64 \text{ 歳人口}} \times 100 \end{aligned}$$

$$\text{老年化指数} = \frac{65 \text{ 歳以上人口}}{0 \sim 14 \text{ 歳人口}} \times 100$$

4 年次別出生数

男女別出生数の年次別推移を昭和44年からみると、第2次ベビーブームの昭和48年には男が5万365人、女が4万7,718人となりピークに達したが、昭和49年から昭和54年までは男女とも出生数は減少の傾向を示している。昭和54年には男3万6,884人、女3万4,874人の出生数となっている。出生の男女別性比を昭和44年から昭和54年までみても、女100人に対し男が105人から106人生まれている。出生の段階では男のほうが女よりもたくさん生まれている。

図12 男女別出生数の年次別推移（兵庫県）

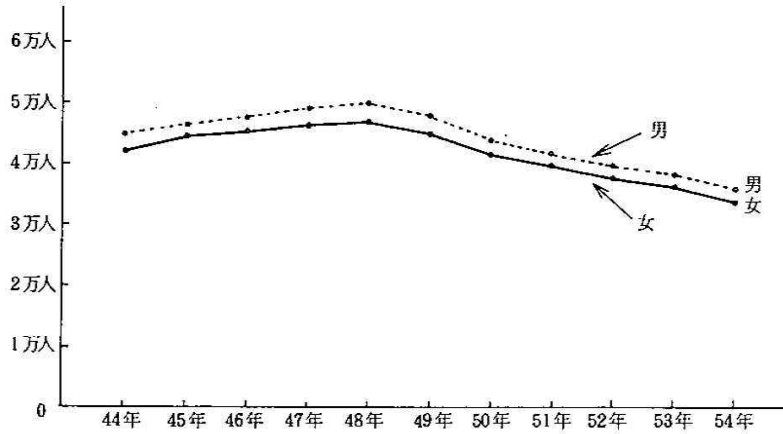


表17 年次別男女別出生数（兵庫県）

年次	男 (人)	女 (人)	性比(女=100)
昭和44年	45,061	42,144	106.9
昭和45年	47,389	44,537	106.4
昭和46年	48,659	45,720	106.4
昭和47年	49,879	47,089	105.9
昭和48年	50,365	47,718	105.5
昭和49年	48,765	45,617	106.9
昭和50年	44,992	42,460	106.0
昭和51年	42,788	40,621	105.3
昭和52年	40,999	38,590	106.2
昭和53年	39,308	37,384	105.1
昭和54年	36,884	34,874	105.8

(注) 推計人口

5 老年人口

兵庫県の総人口の増加率で老年人口の増加率を割ったものを老年人口の弾性値というが、大正14年から昭和25年までの弾性値は1に満たず小数点の値を示している。人口の増加率と老年人口の増加率が等しければこの弾性値は1になるのであるが、昭和30年以降の兵庫県の人口の増加率よりも老年人口の増加率のほうが大きいため、弾性値は1を超えている。昭和30年は2以上であり、昭和50年には3を超す大きな値となっている。

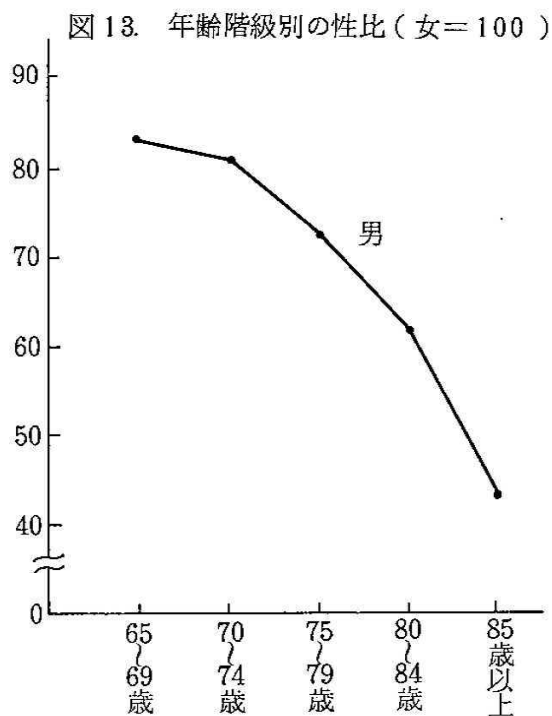
表18 老年人口の推移（兵庫県）

年次	総人口	増加率(A)	老年人口	増加率(B)	老年人口割合	弾性値 $\left(\frac{\text{老年人口増加率(B)}}{\text{総人口増加率(A)}}\right)$
大正9年	2,301,799 ^人	— [%]	117,762 ^人	— [%]	5.1 [%]	—
“14年	2,454,679	6.6	124,884	6.0	5.1	0.909
昭和5年	2,646,301	7.8	127,193	1.8	4.8	0.231
“10”	2,923,249	10.5	132,673	4.3	4.5	0.410
“15”	3,212,045	10.2	143,180	7.9	4.5	0.775
“20”	2,821,892	△ 12.4	141,974	0.8	5.0	—
“25”	3,309,935	17.3	161,276	13.6	4.9	0.786
“30”	3,620,947	9.4	194,282	20.5	5.4	2.181
“35”	3,906,487	7.9	222,593	14.6	5.7	1.848
“40”	4,309,944	10.3	265,577	19.3	6.2	1.873
“45”	4,667,928	8.3	324,005	22.0	6.9	2.651
“50”	4,992,140	6.9	395,727	22.1	7.9	3.203

(注) 国勢調査

6 男女別老年人口

昭和50年の国勢調査による65歳以上の人口は39万5,727人で県全体の7.9%を占めている。この総数を年齢階級別の構成比でみると、65歳から69歳までの人口がおよそ4割を占め、70歳から74



歳までの人口もおおむね3割程度を占めている。

85歳以上の人口は4.3%である。

老年人口の男女別内訳を昭和50年の国勢調査でみると男は17万756人、女は22万4,971人で、女100人に対し男75.9人である。これを女100に対する男の性比は75.9であるという。65歳から69歳までの性比は82.4であるのに70歳から74歳までの性比は80.4となり以後の年齢階級別の性比は低下してきて、85歳以上になると42.9にまでなる。女100人に対し男が約43人となる。

表19 老年人口の男女別内訳(兵庫県一昭和50年)

年齢階級	総数	構成比		性比(女=100)
		男	女	
総数	395,727	170,756	224,971	75.9
65~69歳	155,415	70,208	85,207	82.4
70~74歳	115,310	51,386	63,924	80.4
75~79歳	73,060	30,800	42,260	72.9
80~84歳	34,939	13,257	21,682	61.1
85歳以上	17,003	5,105	11,898	42.9

(注) 国勢調査

7 国籍年齢別外国人

表20 国籍年齢別外国人数(兵庫県 - 50年) (%)

兵庫県の外国人は昭和50年の国勢調査によると7万1,801人で県全体の1.44%にあたる。外国人の中では韓国・朝鮮人(83.07%)が最も多く、つづいて中国人(11.0%)、アメリカ人(1.37%)、その他(4.57%)となっている。外国人全体での年齢階級の構成比では、0~4歳と5~9歳が10%以上を占めているが25~29歳の年齢階級も10%近くを占める。

韓国・朝鮮人も9歳までが10%を占めている。中国人では25~29歳が11.8%と多い。アメリカ人は30~34歳が多い。

年齢階級	構成比		構成比		構成比	
	総数	韓国・朝鮮	中国	アメリカ	その他	
総数	71,801	59,646	7,894	983	3,278	
0~4歳	7,702	6,527	738	96	341	
5~9歳	7,220	6,105	688	83	344	
10~14歳	6,658	5,788	546	95	229	
15~19歳	6,281	5,507	538	93	143	
20~24歳	6,744	5,747	724	63	210	
25~29歳	7,134	5,767	930	83	354	
30~34歳	6,022	4,927	664	99	332	
35~39歳	4,997	4,126	483	51	337	
40~44歳	3,885	3,142	419	83	241	
45~49歳	3,680	2,903	481	83	213	
50~54歳	3,546	2,813	519	52	162	
55~59歳	2,575	2,073	368	34	100	
60~64歳	2,168	1,737	312	26	93	
65~69歳	1,576	1,236	255	21	64	
70~74歳	892	711	125	7	49	
75~79歳	491	375	75	7	34	
80~84歳	141	100	22	3	16	
85歳以上	89	62	7	4	16	

(注) 国勢調査

IV 世帯構造

1 全国の世帯

大正9年の1,112万2千世帯から昭和50年には3,138万5千世帯で2.82倍の伸びになっている。普通世帯人員は大正9年の5,433万6千人から昭和50年に1億797万9千人なり1.99倍となっている。普通世帯数の伸びのほうが普通世帯人員のそれよりも伸びが著しい。普通世帯数がよく伸びていることは1世帯当たりの人員からみてもよくわかる。大正9年に1世帯当たり人員は4.89人であったのが、昭和10年には5.02人までに増加したが、昭和15年から昭和50年までは減少をつづけ、昭和50年には1世帯当たり3.44人にまでなった。普通世帯数の5年ごとの増加率は昭和50年には15.9%である。

表21 普通世帯数及び普通世帯人員の推移 — 全国 —

年次	普通世帯数 (千世帯)	普通世帯人員 (千人)	1世帯当 り人員 (人)	5年ごとの増加率	
				普通世帯数	普通世帯人員
大正9年	11,122	54,336	4.89	—%	—%
“ 14年	11,903	58,015	4.87	7.0	6.8
昭和5年	12,600	62,761	4.98	5.9	8.2
“ 10年	13,383	67,250	5.02	6.2	7.2
“ 15年	14,214	70,961	4.99	6.2	5.5
“ 25年	16,425	81,629	4.97	8.0	7.7
“ 30年	17,540	87,173	4.97	5.8	5.8
“ 35年	19,871	90,285	4.54	13.3	3.6
“ 40年	23,280	94,393	4.05	17.2	4.6
“ 45年	27,071	99,983	3.69	16.3	5.9
“ 50年	31,385	107,979	3.44	15.9	8.0

(注) 国勢調査

2 兵庫県の世界帯

兵庫県の世界帯総数は昭和25年には71万3,901世帯であったが、昭和50年には144万612世帯で、この25年間に世帯は2.01倍にも伸びている。世帯総数を普通世帯と準世帯に分けると普通世帯が最低でも昭和35年には96%で、準世帯は4%となっている。昭和50年には普通世帯の構成比は97.9%となり準世帯の構成比は2.0%となっている。

図14 兵庫県の世界帯数の推移

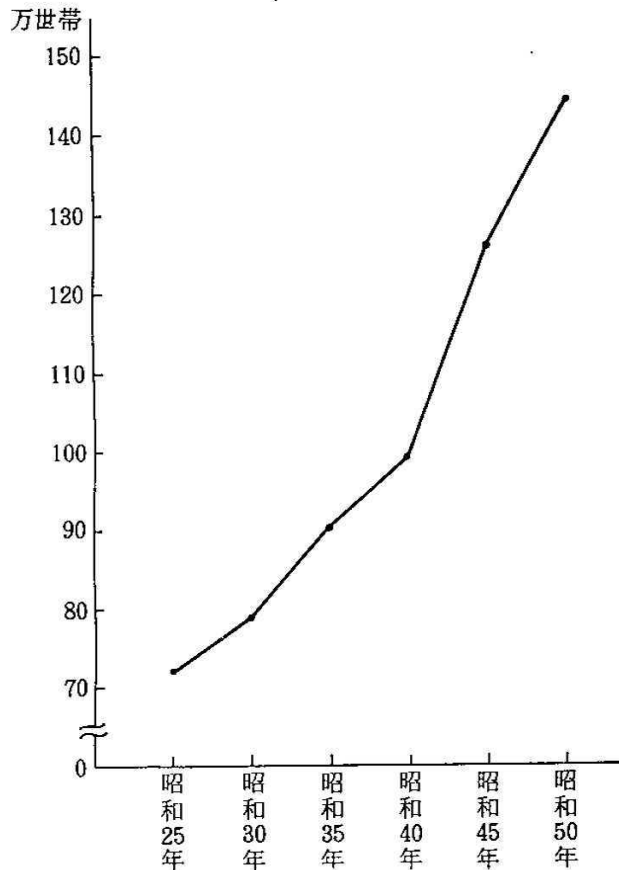


図15 普通世帯及び準世帯の構成比の推移

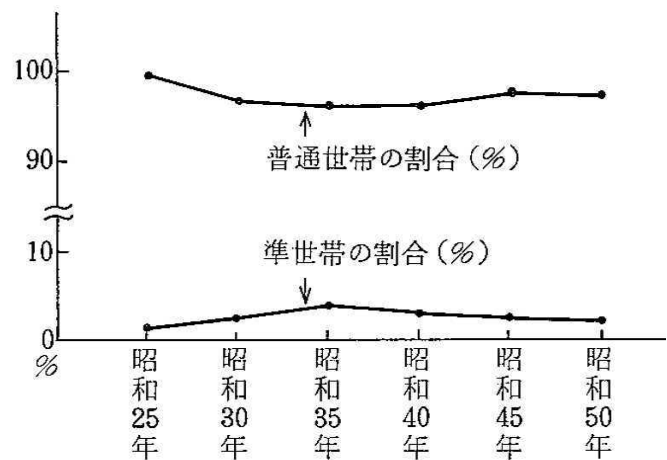


表22 世帯数の推移 (兵庫県)

年次	世帯総数	普通世帯		準世帯	
		世帯数	構成比	世帯数	構成比
昭和25年	713,901	706,695	99.0	7,206	1.0
昭和30年	785,747	762,504	97.0	23,243	3.0
昭和35年	909,121	873,022	96.0	36,099	4.0
昭和40年	1,090,934	1,055,245	96.7	35,689	3.3
昭和45年	1,269,229	1,233,225	97.2	36,004	2.8
昭和50年	1,440,612	1,410,740	97.9	28,225	2.0

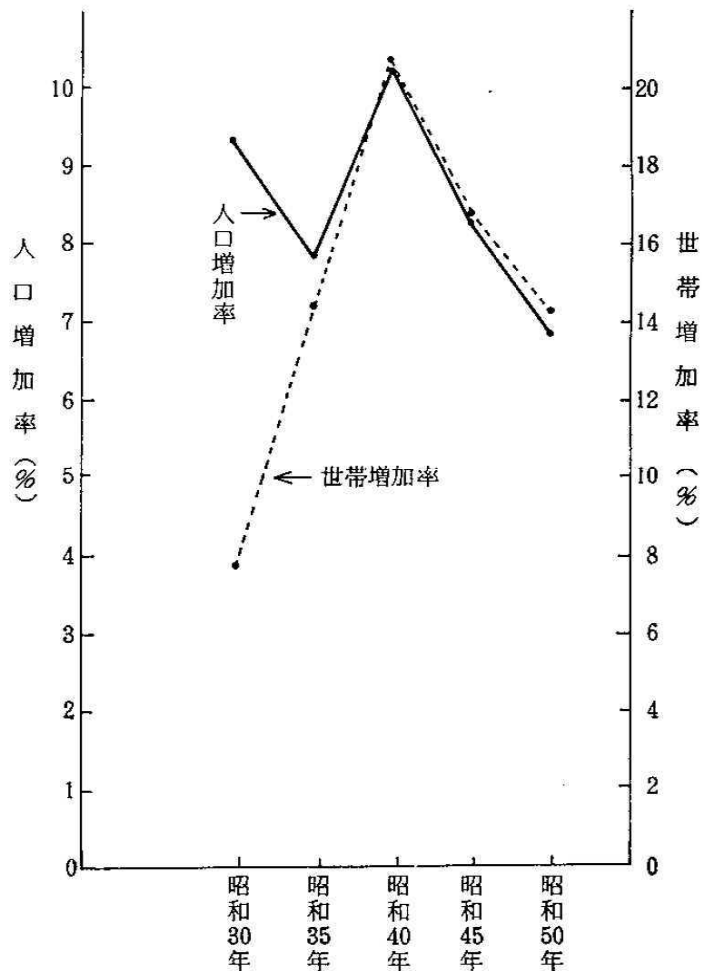
(注) 国勢調査

昭和50年の世帯総数は世帯の種類不詳を含む。

3 普通世帯の増加率及び世帯人員（兵庫県）

兵庫県の普通世帯の5年ごとの増加率を人口の増加率で対比する弾性値を昭和30年からみれば、昭和30年はまだ1になっていないが、昭和35年からは1を超えており昭和40年以降は2を超えている。

図16 普通世帯の増加率及び世帯人員の推移



1世帯当たりの人員を昭和25年からみると、昭和25年は4.56人で、昭和30年には4.58人と増加したが、昭和35年以降からは毎回の調査ごとに減少してきており、昭和50年には3.41人になった。

図17 1世帯当たり人員の推移

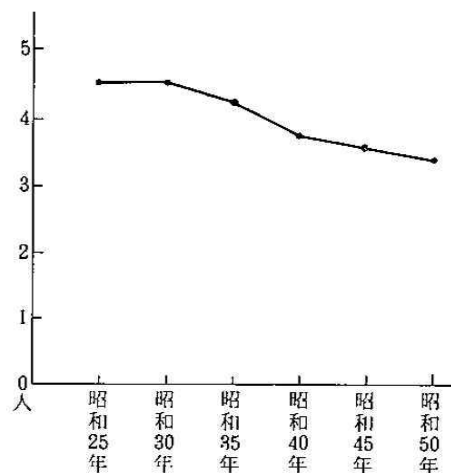


表23 普通世帯の増加率及び世帯人員の推移（兵庫県）

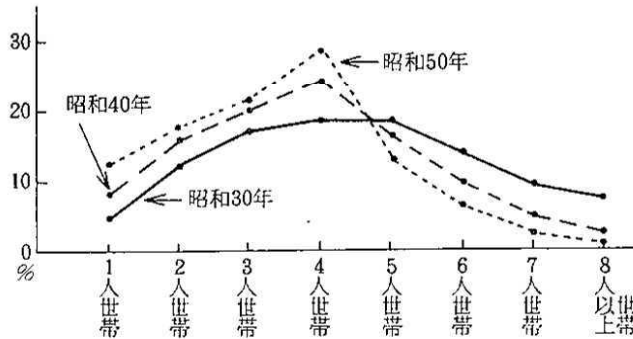
年次	5年ごとの増加率		世帯当たり 人員	弾性値 $\left(\frac{\text{世帯増加率}}{\text{人口増加率}}\right)$
	人口 (%)	世帯 (%)		
昭和25年	—	—	4.56	—
昭和30年	9.4	7.9	4.58	0.84
昭和35年	7.9	14.5	4.27	1.84
昭和40年	10.3	20.9	3.87	2.03
昭和45年	8.3	16.9	3.60	2.04
昭和50年	6.9	14.4	3.41	2.09

(注) 国勢調査

4 世帯人員別普通世帯（兵庫県）

普通世帯のうち1人世帯から8人以上の世帯の構成比では、1人世帯から4人世帯の構成比が昭和

図 18. 世帯人員別普通世帯の構成比の推移



30年の51.6%から昭和40年には67.1%へ、昭和50年には78.9%へとその割合が増加している。5人以上の世帯はその割合が減少していることがわかる。

1世帯当たり平均すれば3.41人というものの5人以上の世帯もわりあいあることが理解されるだろう。

表 24 世帯人員別普通世帯数の推移（兵庫県）

世帯人員		昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年
世帯数	普通世帯総数	762,504	873,022	1,055,245	1,233,225	1,410,740
	1人世帯	30,171	47,325	82,798	119,477	170,574
	2 "	94,720	121,577	163,182	203,064	250,812
	3 "	127,171	155,443	208,944	258,485	293,525
	4 "	140,973	178,541	253,227	334,759	397,530
	5 "	133,308	152,686	168,737	175,721	174,948
	6 "	104,373	108,519	101,119	91,365	80,150
	7 "	68,076	61,801	50,243	33,786	31,326
8人以上	63,712	47,130	26,995	16,568	11,875	
構成比	普通世帯総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	1人世帯	4.0	5.4	7.8	9.7	12.1
	2 "	12.4	13.9	15.5	16.5	17.8
	3 "	16.7	17.8	19.8	21.0	20.8
	4 "	18.5	20.5	24.0	27.1	28.2
	5 "	17.5	17.5	16.0	14.2	12.4
	6 "	13.7	12.4	9.6	7.4	5.7
	7 "	8.9	7.1	4.8	2.7	2.2
8人以上	8.4	5.4	2.6	1.3	0.8	
増加率	普通世帯総数	—	14.5	20.9	16.9	14.4
	1人世帯	—	56.9	75.0	44.3	42.8
	2 "	—	28.4	12.0	24.4	23.5
	3 "	—	22.2	34.4	23.7	13.6
	4 "	—	26.6	41.8	32.2	18.8
	5 "	—	14.5	10.5	4.1	△ 0.4
	6 "	—	4.0	6.8	△ 9.6	△ 12.3
	7 "	—	△ 9.2	△ 18.7	△ 32.8	△ 7.3
8人以上	—	△ 26.0	△ 42.7	△ 38.6	△ 28.3	

表 25 1人～4人世帯の割合

年次	1人から4人までの世帯の割合(%)
30	51.6
35	57.6
40	67.1
45	74.3
50	78.9

注) 国勢調査

5 家族類型別普通世帯（兵庫県）

普通世帯を家族類型別でみると昭和 50 年の構成比では夫婦と子供（48.8%）と夫婦のみ（13.1%）の世帯を合わせると 61.9%の多きに達する。女親と子供（5.2%）や男親と子供（1.0%）の世帯はすくない。世帯の増加率の中では、昭和 45 年も昭和 50 年も夫婦のみというのがそれぞれ 26.8%、27.3%と大きく伸びていることがわかる。

表 26 家族類型別普通世帯数の推移 - 兵庫県

	年次	総数	親 族 世 帯							非親族 世 帯	単独世帯
			総数	核 家 族 世 帯				その他 の親族 世 帯			
				総数	夫 婦 の み	夫 婦 と 子 供	男 親 と 子 供		女 親 と 子 供		
世 帯 数	40	1,053,130	969,230	698,040	114,565	501,370	11,685	70,420	271,190	4,910	78,990
	45	1,233,225	1,108,588	833,041	145,264	603,466	13,460	70,851	275,547	5,160	119,477
	50	1,410,740	1,236,899	960,393	184,941	688,027	13,462	73,963	276,506	3,267	170,574
構 成 比	40	100.0	92.0	66.3	10.9	47.6	1.1	6.7	25.8	0.5	7.5
	45	100.0	89.9	67.5	11.8	48.9	1.1	5.7	22.3	0.4	9.7
	50	100.0	87.7	68.1	13.1	48.8	1.0	5.2	19.6	0.2	12.1
増 加 率	45	17.1	14.4	19.3	26.8	20.4	15.2	0.6	1.6	5.1	51.3
	50	14.4	11.6	15.3	27.3	14.0	0.0	4.4	0.3	△36.7	42.8

(注) 昭和 40 年は 20%抽出集計結果により、昭和 45 年の世帯の家族類型により組みかえた普通世帯である

6 地域別世帯の家族類型別普通世帯（兵庫県）

地域別世帯の家族類型別普通世帯を総数の構成比で見れば、県計では親族世帯の核家族が68.1%、単独世帯が12.1%ある。親族世帯のうち核家族を地域別の構成比で見れば、県平均の68.1%よりも多い地域は阪神地域(73.0%)と神戸地域(70.6%)の2地域である。県平均に近いのが東播地域(67.4%)と西播地域(64.5%)である。淡路地域(51.8%)、但馬地域(50.4%)と丹波地域(47.2%)の3地域は核家族の構成比が半分程度でその他の親族世帯の構成比が他の地域よりも多くなっている。

地域の特色がこの構成比によってよく現われている。単独世帯で10%を越えている地域は神戸地域(15.5%)、阪神地域(13.6%)と淡路地域(11.4%)の3地域となっている。

表 27 地域別世帯の家族類型別普通世帯数（兵庫県 - 昭和50年）

世帯の家族類型		県計	神戸	阪神	東播	西播	但馬	丹波	淡路
総	数	1,410,740	415,724	445,789	206,495	212,390	54,810	28,755	46,777
	構成比	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
親 族 世 帯	総	1,236,899	349,819	384,033	190,183	194,201	50,556	26,753	41,354
	構成比	87.7	84.1	86.1	92.1	91.4	92.2	93.0	88.4
	核	960,393	293,512	325,323	139,177	136,955	27,610	13,578	24,238
	構成比	68.1	70.6	73.0	67.4	64.5	50.4	47.2	51.8
	その	276,506	56,307	58,710	51,006	57,246	22,946	13,175	17,116
	構成比	19.6	13.5	13.2	24.7	27.0	41.9	45.8	36.6
非親族世帯		3,267	1,314	1,184	278	300	71	35	85
構成比		0.2	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2
単独世帯		170,574	64,591	60,572	16,034	17,889	4,183	1,967	5,338
構成比		12.1	15.5	13.6	7.8	8.4	7.6	6.8	11.4

(注) 国勢調査。総数の構成比は四捨五入の関係で一致しない

V 労働力就業構造

1 全国の労働力人口

大正9年から昭和50年までに人口総数は2.00倍に増加しているが、15歳以上人口は2.38倍と人口総数の伸びよりも大きく伸びている。労働力人口は2.10倍までになっている。男女別に労働力人口の増加をみても同じく2.10倍となっており増加率には差がない。

図 19. 労働力人口の推移 — 全国 —

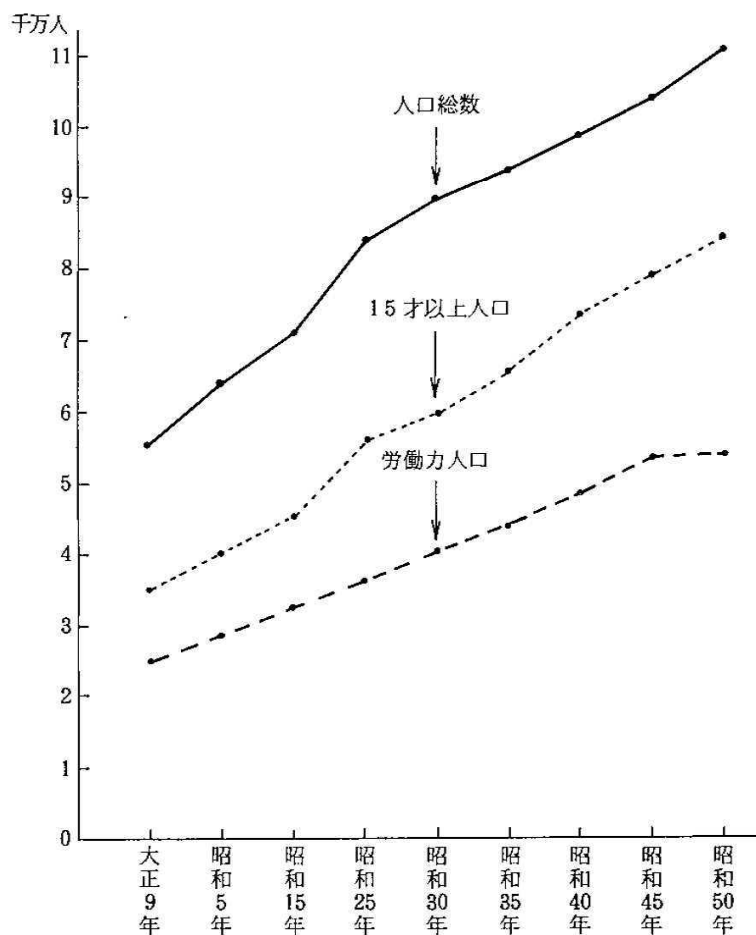


表 28 労働力人口の推移 — 全国

(千人)

人口	大正9年	昭和5年	昭和15年	昭和25年	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	
総数	人口総数	55,963	64,450	71,933	84,115	90,077	94,302	99,209	104,665	111,934
	15歳以上人口	35,547	40,871	45,913	56,158	59,953	65,867	73,680	79,512	84,700
	労働力人口	25,866	28,548	32,661	36,748	40,358	44,384	48,627	53,321	54,375
男	人口総数	28,044	32,390	35,387	41,241	44,243	46,300	48,692	51,369	55,115
	15歳以上人口	17,735	20,495	22,697	27,041	28,898	31,778	35,693	38,512	41,176
	労働力人口	16,350	18,548	20,450	22,579	24,616	27,018	29,693	32,467	34,357
女	人口総数	27,919	32,060	36,546	42,873	45,834	48,001	50,517	53,296	56,819
	15歳以上人口	17,812	20,375	23,217	29,117	31,055	34,089	37,987	41,001	43,524
	労働力人口	9,516	10,000	12,211	14,169	15,743	17,366	18,933	20,854	20,018

(注) 国勢調査

2 兵庫県の労働力人口

兵庫県の労働力人口は昭和30年には155万5,500人であったが、昭和35年に所得倍増計画が発表されてから高度成長経済に邁進したが、昭和48年の石油ショックにより経済成長は低下したので、兵庫県の労働力人口も昭和45年に比して昭和50年は低下した。

これを弾性値についてみると、国の昭和30年から昭和35年までの労働力人口の増加率と兵庫県の増加率が同じ程度であれば、その比率は1となる。

県の国に対する弾性値は昭和35年には1.055となり国の増加率よりも県の増加率のほりが大きかったことがわかる。

図20 労働力人口の推移

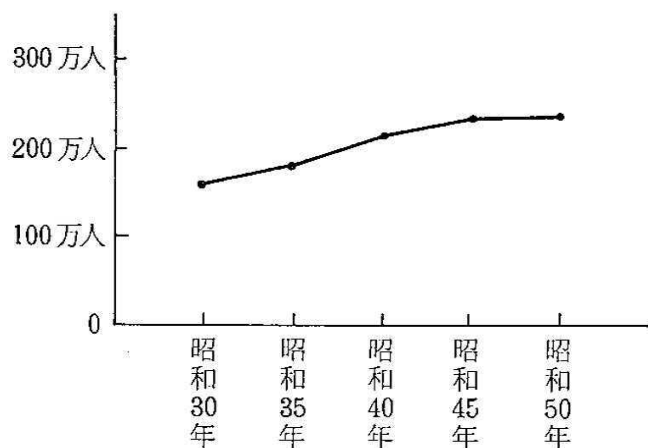


表29 県の国に対する弾性値

年次	弾性値 $\left(\frac{\text{県の労働力人口増加率}}{\text{国の労働力人口増加率}}\right)$
35/30	1.055
40/35	1.056
45/40	1.013
50/45	0.980

表30 労働力人口の推移 (兵庫県)

年 齢	労働力人口 (人)					増 加 率 (%)			
	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	35/30	40/35	45/40	50/45
総 数	1,555,500	1,805,100	2,089,100	2,321,579	2,318,936	16.0	15.7	11.1	△ 0.1
15～19歳	150,300	201,400	182,800	140,985	74,192	34.0	△ 9.2	△ 22.9	△ 47.4
20～24歳	255,900	261,700	329,800	373,799	278,633	2.3	26.0	13.3	△ 25.5
25～29歳	214,100	252,000	259,400	295,445	330,548	17.7	2.9	13.9	11.9
30～34歳	173,600	219,400	248,500	262,012	284,904	26.4	13.3	5.4	8.7
35～39歳	147,200	184,000	245,800	271,928	265,945	25.0	33.6	10.6	△ 2.2
40～44歳	153,500	149,100	193,200	254,292	273,567	△ 2.9	29.6	31.6	7.6
45～49歳	135,000	152,500	162,500	198,043	249,057	13.0	6.6	21.9	25.8
50～54歳	115,200	127,600	152,800	156,717	185,055	10.8	19.7	2.6	18.1
55～59歳	84,100	103,000	130,500	143,404	137,527	22.5	26.7	9.9	△ 4.1
60～64歳	58,300	73,200	88,100	105,925	114,627	25.6	20.4	20.2	8.2
65歳以上	68,300	81,200	95,700	119,029	121,097	18.9	17.9	24.4	1.7

(注) 国勢調査

昭和30年、35年、40年は1%抽出集計による

3 男子労働力コーホート

昭和30年のときの15歳から19歳までの労働力人口は7万2,200人であったが、その労働力人口は昭和35年には5歳ふえて20歳から24歳の労働力人口で15万3千人となった。このようにして昭和40年には19万2,200人、昭和45年には19万1,180人、昭和50年には18万6,220人となった。

コーホート増加数は昭和30年から昭和35年までは15歳から29歳までが11万1,100人増加している。昭和35年から昭和40年までは20歳から39歳までの労働力人口が13万8,800人増加した。昭和40年から45年にかけては20歳から29歳までの労働力人口が13万9,082人増加している。45年から50年にも同じく20歳から29歳までの労働力人口が11万7,031人増加している。5年ごとの調査からみても若い労働力が増加していることがうかがわれる。

表31 男子労働力コーホートの推移（兵庫県）

（単位：人）

昭和30年		昭和35年		昭和40年		昭和45年		昭和50年		コーホート増加数			
年齢	労働力人口	年齢	労働力人口	年齢	労働力人口	年齢	労働力人口	年齢	労働力人口	昭和30年～35年	35年～40年	40年～45年	45年～50年
								15～19歳	39,093	—	—	—	—
						15～19歳	73,261	20～24歳	155,556	—	—	—	82,295
				15～19歳	94,900	20～24歳	208,575	25～29歳	243,311	—	—	113,675	34,736
		15～19歳	103,500	20～24歳	190,800	25～29歳	216,207	30～34歳	211,974	—	87,300	25,407	△ 4,233
15～19歳	72,200	20～24歳	153,000	25～29歳	192,200	30～34歳	191,180	35～39歳	186,220	80,800	39,200	△ 1,020	△ 4,960
20～24歳	155,100	25～29歳	179,500	30～34歳	183,000	35～39歳	186,166	40～44歳	182,444	24,400	3,500	3,166	△ 3,722
25～29歳	151,400	30～34歳	157,300	35～39歳	166,100	40～44歳	165,394	45～49歳	162,147	5,900	8,800	△ 706	△ 3,247
30～34歳	119,900	35～39歳	116,900	40～44歳	115,300	45～49歳	118,391	50～54歳	113,279	△ 3,000	△ 1,600	3,091	△ 5,112
35～39歳	94,300	40～44歳	95,700	45～49歳	95,700	50～54歳	92,564	55～59歳	85,023	1,400	0	△ 3,136	△ 7,541
40～44歳	100,000	45～49歳	96,900	50～54歳	95,800	55～59歳	89,932	60～64歳	76,223	△ 3,100	△ 1,100	△ 5,868	△ 13,709
45～49歳	90,100	50～54歳	87,100	55～59歳	85,100	60～64歳	69,529	65～69歳	50,006	△ 3,000	△ 2,000	△ 15,571	△ 19,523
50～54歳	80,300	55～59歳	68,600	60～64歳	61,900	65～69歳		70～74歳	26,357	△ 11,700	△ 6,700	—	—
55～59歳	58,900	60～64歳	53,800	65～69歳	41,900	70～74歳	83,955	75～79歳	10,477	△ 5,100	△ 11,900	—	—
						75歳以上		90歳以上	3,474				

（注）国勢調査

昭和30～40年は1%抽出集計による

4 職業（大分類）別就業者

昭和50年の国勢調査による職業別就業者を総数の構成比で見ると、最も多い職業に従事しているのは技能工・生産工程作業者及び単純作業者（33.9%）である。総数のおよそ3分の1程度の人がこの職業に従事している。

つぎに多いのは事務従事者（19.2%）で、就業者の5人に1人はこの職業に従事している。全体の構成比で1割以上を占めている職業に従事しているのは、このほかに販売従事者（13.6%）がある。管理的職業従事者（5.0%）は、20人に1人はいる。専門的・技術的職業従事者は100人のうち8人がいることになる。

表32 職業（大分類）別就業者数（兵庫県一昭和50年）

（単位：人、%）

職業従事者	総数	構成比	男	構成比	女	構成比
総数	2,255,555	100.0	1,499,920	100.0	755,635	100.0
専門的・技術的職業従事者	182,165	8.1	110,670	7.4	71,495	9.5
管理的職業従事者	112,680	5.0	107,390	7.2	5,290	0.7
事務従事者	434,030	19.2	225,405	15.0	208,625	27.6
販売従事者	306,470	13.6	191,910	12.8	114,555	15.2
農林・漁業作業者	155,425	6.9	82,470	5.5	72,955	9.7
採鉱・採石作業者	1,660	0.1	1,580	0.1	80	0.0
運輸・通信従事者	108,075	4.8	100,730	6.7	7,345	1.0
技能工・生産工程作業者及び単純作業者	763,525	33.9	592,525	39.5	171,000	22.6
保安職業従事者	28,950	1.3	28,135	1.9	815	0.1
サービス職業従事者	159,340	7.1	58,055	3.9	101,285	13.4
分類不能の職業	3,240	0.1	1,050	0.1	2,190	0.3

（注）国勢調査、20%抽出集計結果による

5 年齢階級別就業者

年齢階級別に就業者をみると第1次産業のうち農業では40歳以上の年齢階級の人が各階級とも1万人以上従事している。第2次産業では製造業の25歳から34歳までの各年齢階級が9万人を超えている。第3次産業で従事者の最も多い卸売業、小売業の中では25歳から29歳までの階級の人が8万人程度従事している。

表33 年齢階級別就業者数（兵庫県－昭和50年）

（単位：人）

年 齢	総 数	第1次産業				第2次産業			第3次産業								分類不能の産業	
		農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建設業	製造業	卸売業、小売業	金融・保険業	不動産業	運輸・通信業	電気・ガス・水道・熱供給業	サービス業	公 務				
総 数	2,257,640	155,839	143,907	2,299	9,633	862,533	2,244	189,770	670,519	1,232,759	504,191	72,836	18,319	180,599	15,221	863,707	77,886	6,509
15～19歳	71,329	730	431	10	289	32,223	26	4,785	27,412	38,106	16,672	5,196	79	3,574	782	10,199	1,604	270
20～24歳	269,453	2,894	2,241	44	609	100,749	117	19,935	80,697	165,023	65,605	18,517	1,004	17,639	2,128	49,616	10,514	787
25～29歳	321,390	5,850	4,945	68	837	122,372	209	29,801	92,362	192,132	80,496	11,026	1,846	29,421	2,044	54,591	12,708	1,036
30～34歳	279,363	7,340	6,333	111	896	118,161	173	26,300	91,688	153,049	66,159	7,511	1,623	26,584	1,958	39,810	9,404	813
35～39歳	261,236	10,471	9,113	206	1,152	113,521	232	24,691	88,598	136,546	59,092	6,056	1,506	23,209	1,651	37,570	7,462	698
40～44歳	268,802	16,300	14,420	358	1,522	111,398	370	26,009	85,019	140,443	55,007	6,832	1,779	25,743	1,640	39,727	9,715	661
45～49歳	244,543	20,854	19,058	456	1,340	94,960	470	20,834	73,656	128,160	44,709	5,944	1,947	24,194	2,396	38,136	10,834	569
50～54歳	181,420	19,443	18,285	329	829	67,490	336	12,629	54,525	94,020	35,035	4,593	1,746	14,785	1,575	29,422	6,864	467
55～59歳	132,201	18,487	17,670	243	574	44,621	134	9,469	35,018	68,746	28,075	3,006	2,034	7,308	660	23,868	3,795	347
60～64歳	108,020	20,242	19,358	235	649	31,581	104	8,688	22,789	55,829	24,492	2,112	2,038	4,834	234	19,780	2,339	368
65歳以上	119,883	33,228	32,053	239	936	25,457	73	6,629	18,755	60,705	28,849	2,043	2,717	3,308	153	20,988	2,647	493

出 国勢調査